

人権演劇の鑑賞会 児童も芝居に参加

近江八幡・武佐小

近江八幡市武佐小学校で27日、人権演劇鑑賞会があり、児童らが国内や韓国で活動する劇団石(彦根市新海浜)の演劇「こいぬのうんち」に加わったり、鑑賞したりして楽しんだ。

原作は韓国のベストセラー絵本「カンアジトン」で、道端に残された子犬のうんちを巡る物語。児童199人は半円を描くように舞台を囲み、劇団員は児童や教職員を次々と舞台に招き入れながら芝居を演じた。

児童から「くさい」「汚い」「近づきたくない」と邪魔者扱いされたうんちだが、春の雨が降った後、タンポポが芽吹き、美しい花を咲かせた。その周りで児

童がシャボン玉を飛ばすと、春らしい光景に包まれた。牛やカエルのかぶり物を付けた児童が舞台で演じるたび、体育館内に歓声が響き渡った。

劇団を主宰し、児童らと一緒に演じたキム・キガンさん(50)は「みんな誰かのために存在している。うん



劇団を主宰するキムさん(左)の両脇でシャボン玉を飛ばし、即興で芝居を演じる女子児童
〓 近江八幡市武佐小で

ちもそう。すべての命や存在には意味があると感じ取ってくれたら」と願っていた。6年の
(12)
は「きれいなタンポポを咲かすには、うんちの力も必要なんだと思った」と話した。
(松瀬晴行)